

経営と健康



忠臣蔵の財政

講談師 一龍齋貞花

映画「決算 忠臣蔵」が話題になっている。人気の忠臣蔵ということもあるが、これまで仇討ちが眼目であったものが、財政にスポットが当てられたので注目されている。

銀行はじめ金融関係で講演している中に「戦国武将の税のあり方、生かし方」「ソロバンをもった武将たち」、そして「忠臣蔵の財政」があり、浅野家の財政、そして仇討ちまでの大名の預り金まで講演。浅野家五万三千石の財政をのぞいてみましょう。

「塩・田」

○浅野家 360町歩 良質の塩

○吉良家 45町歩 岡崎の八丁味噌

信州の漬物用

赤穂の塩は、江戸各地へ食用として出荷、今も盛んに宣伝されている。

浅野内匠頭が、塩の作り方を教えてくれなかったので、吉良上野介がいじ

めたことから、内匠頭が殿中で刃傷に及んだのが原因と言われるが、小企業でも良質なら兎も角、大企業の良質な製品に太刀打ち出来ない。浅野家は産業振興、技術開発などで10万石近い収入があったという説も。吉良は度々の洪水に悩まされ、そこで長さ180

m、高さ4mの黄金堤を造り、富子夫人が眼病を患った時、回復祈願をし、新田開発を行うと誓い、回復御礼に富好新田を開発するなど名君である。裕福な浅野家は、

・赤穂五千人の各家庭に水道

1616年（元和2年）

・神田上水 1590年

・玉川上水 1653年

昔は各家庭に水道は引

「饗応役費用」

浅野内匠頭	天和3年(1683)	17歳	400両
	元禄14年(1701)	35歳	700両=2940万円
伊藤出雲守	元禄10年(1697)	1200両	=5,400万円

「浅野家の資本金」

禄高	5万3千石	42億4千万円	4公6民	16億9,600万円
塩田収入	3~5万石	24~40億円	4公6民	9億6千万円~16億円

「倒産時の資金」 1石金1両 } 8万円計算
銀56匁 }

米	2,466石4斗	1億9,731万円
金	14,675両2分2朱	11億7,045万円
銀	11貫160匁	1,594万円
合計		13億8,730万円

藩札引換金	6割の引換率	7億2,000万円
退職金		4億9,497万円 (1両10万円説もある)

かれなかった。インフラも充実。いかに早かったか。元禄のバブル時に4年前の出雲守より500両も少ない。裕福なのに少ないとあつてけちと言われても仕方がない。

下級の者ほど、割合がよくなるよう配慮された。倒産時上役ががちり取り、部下はわずかということが多いのに見事な配慮。藩札の引換率を10割にしたら退職金が払えなくなるので、6割で我慢してほしい。退職金も上役は減らすからと。これを決めたのは家老の大野九郎兵衛と言われている。真つ先に逃げ出したずるい奴と思われるのが決してそうではない。上野介が米

退職金	禄高	100石につき18両
		100石増すごとに2両ずつ減らし
		上限900石
		(200石は36両のところ34両)
大石内蔵助	1,500石	→900石分 720万円
		(1石18両計算なら2,700万円)
原惣右衛門	300石	→48両 384万円
堀部安兵衛	200石	→34両 272万円
大高源吾	20石	2人扶持 14両 112万円
横川勘平	5両	3人扶持 10両 80万円
三村次郎左衛門	7石	2人扶持 5両 40万円
その他		
退職金合計		4億9,497万円

沢の俵のところへ逃げるだろうから、待ち伏せのため早く引き上げたとも。

引き渡した米が、1214石2斗で、9,715万円。

もらった寄付金が250両、2,000万円。きつと取引していた商人からの寄付でしょう。

倒産会社へ寄付金がもらえるというのは、塩の売買で儲けさせたのである。

こうしてみると、領民から慕われていた浅野家と思えるが、内匠頭長矩の祖父長直が笠間（茨城県）から転封となり、城下町の整備と赤穂城の建設で、領民から取り立てをおこなったであろう、長矩の事件で浅野家取り潰しとなるや、餅をついて村中に配って喜んだ村があるというから評判とは大違い。塩で裕福になり6公4民という優遇税制も後年のことで、城建設には莫大な費用がかかるため過酷な取立てがあったのかもしれない。

大石の預かり金

大石の預かり金 690両2朱

5,521万円、

大石の補充金7両1分 58万円

650日間合計 697両1分2朱
5,579万円

倒産時の資金から、藩札引換両、退職金を引くと、6,500万円ほど差額があるが、大石が預かるまでなにかと出費、始末に金が掛かったのかもしれないし、私の調査不十分でもありましょう。映画では討入り費用9,000万円としているが、一両10万円計算したのかもしれないが、この5,579万円が討入りまでに大石が使った費用で、大石がきちんと記録した帳簿が残っており、この697両1分2朱が、討入りまでに使った費用に間違いなからう。

内匠頭の未亡人瑠泉院は、浅野家取り潰しと決まるや、長直夫人のお墓のある妙行寺に供養料30両を納めている。後にそうした縁から瑠泉院の供養塔が建てられている（妙行寺にはお岩様のお墓がある）。

計算が得意でないとと言われる大石がきちんとつけた帳簿である。

大石は55万円補填している計算になる。

山科に閑居した後、祇園、島原で遊

んだと言われているが、遊興費は自分の金を使い、高額の上級遊女とは遊ばなかったという。

（家老時代は、吉原で遊び比丘尼買いましたなんて噂も、英雄ですね。）

江戸時代、旅費交通費がいかに掛かったか。下級の武士たちが1年10カ月間いかに生活に困窮したか、それを耐えて仇討ちをしたというのは凄い。

内匠頭が、上野介に賄賂を贈らなかつたとか、上野介が詠んだ歌を内匠頭が人前で直して恥をかかしたとか、

お芝居では、内匠頭の夫人瑠泉院に横恋慕して振られたとか、二人の間に男色の遺恨もあるなんて説も。

いざこざがあっただけに、あとからいろんな噂を立てられるんでしょう。

しかし、いかなることがあっても、トップは我慢して家を存続させ、家臣の安泰を図ることが何よりも大切なはず。我慢できなかった内匠頭は責任放棄と言われても仕方なからう。

町人が、官僚上野介に対する反発から浅野浪士に応援したのでありましょう。

650日間の費用	697両1分2朱	5,579万円
慶弔費	内匠頭墓地調べ代 100両他	165両 1,320万円
運動費	遠林寺僧侶江戸路銀他	25両 200万円
旅費	江戸への交通費 滞在費 (大石、原、神崎、遠林寺住職他)	282両 2,256万円
江戸での家賃	浪士達 借家料 54両	} 150両 1,200万円
	三田屋敷調べ代 70両	
	その他家賃 26両	
生活補助費	大高源吾 不如意につき 10両	} 60両 480万円
	原惣右衛門 " 10両	
	その他生活補助費 40両	
武器調達費		10両 80万円
雑費		5両 40万円
	合計	697両 5,576万円
5,579万円 - 5,576万円 = 3万円		
大石の補充金 58万円 - 3万円 = 55万円 (大石の持ち出し金)		

浪士と呼ばれていたのが、寛永寺の一品親王が、義士たちと言われたところから赤穂の義士と呼ばれ、英雄になっていったのです。もう少し遅れたら資金難から仇討ちは出来なかつたかもしれないん。

1年10カ月間苦勞させ、四十七士を率いて事を成した大石。こんな部下を持ちたいものですね。

